

Increased risk of cardiovascular mortality by strict glycemic control (pre-procedural HbA1c <6.5%) in Japanese medically-treated diabetic patients following percutaneous coronary intervention: A 10-year follow-up study

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: English 出版者: 公開日: 2020-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 船水, 岳大 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002437 |

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2191 号

Increased risk of cardiovascular mortality by strict glycemic control (pre-procedural HbA1c <6.5%) in Japanese medically-treated diabetic patients following percutaneous coronary intervention: A 10-year follow-up study

経皮的冠動脈形成術後糖尿病患者の HbA1c 値と予後についての検討:10 年間の追跡調査

船水 岳大 (ふなみず たけひろ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

HbA1c 値は糖尿病の血糖コントロール指標として広く用いられているが、経皮的冠動脈形成術(PCI)後糖尿病患者における、至適 HbA1c 値はいまだに確立されていない。本研究では PCI 後糖尿病患者における、PCI 術前の HbA1c 値とその後の心血管死亡との関連を検討した。

2000 年 1 月から 2016 年 12 月までに当院で PCI を施行した連続 4542 名から、PCI 時に糖尿病内服薬もしくはインスリン治療中の 1328 名を対象として後ろ向きに検討を行った。対象患者を HbA1c>7.0%と、HbA1c≤7.0%の 2 群に分け、その後さらに 5 群(HbA1c<6.5%、6.5%≤HbA1c<7.0%、7.0%≤HbA1c<7.5%、7.5%≤HbA1c<8.5%、HbA1c≥8.5%)に分け解析を行った。主要転帰は突然死を含む心血管死亡とし、フォローアップ期間の中央値は 6.2 年であった。

2 群間の心血管死亡率を Kaplan-Meier 法で解析すると、両群に有意差を認めなかった(P=0.41)。一方、5 群間の心血管死亡率を解析すると、HbA1c<6.5%群は 7.0%≤HbA1c<7.5%群と比較し有意に心血管死亡率が高かった(P=0.042)。また 5 群間と心血管死亡率の関係をコックス比例ハザード解析を行ったところ、7.0%≤HbA1c<7.5%群が最も心血管死亡率が低く、HbA1c<6.5%群が最も死亡率が高かった(ハザード比: 2.97、95%信頼区間: 1.33-7.25、P=0.007)。同様に 5 群間と突然死の関係を単変量解析を行ったところ 7.0%≤HbA1c<7.5%群が最も死亡率が低かった。

以上の結果から PCI 後糖尿病患者において、HbA1c 値 6.5%未満の厳格な血糖管理は心血管死亡を増やす可能性がある。